

St. Luke's International University Repository

卒業を間近にした学生の将来設計と就職への不安

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 江澤, 綾, Esawa, Aya メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00014969

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



卒業を間近にした学生の将来設計と就職への不安

江 澤 綾¹⁾

1. はじめに

学生は進路を選択するにあたって、とても多くのことを考え、悩み、自分の将来を決定している。看護師としての人生のスタートラインに立ち、今まさにその一步目を踏み出そうとしているこのときに、学生たちは何を思いながら歩み始めようとしているのだろうか。

春から病院で私たちを新人看護師として受け入れてくださる職場の方々や、学生を指導してくださっている先生方に「学生がたくさんの思いをもちながら、進路を選択している」ということが伝わり、今後も温かく見守っていただければ幸いに思う。

2. 学生の就職への思いの実際

1) 卒業後の進路

看護大学を卒業した後、多くの学生が病院、保健所、または産業保健師として企業に就職する。そのほかにも大学院に進学するというパターンもみられるようになってきた。それぞれの学生は老年看護、精神看護、小児看護、成人看護、母性看護など各々に興味分野をもっており、自分の興味分野に関連した病院や部門に就職を希望している様子が多くみられた。

さらに、保健師や助産師の国家試験受験資格が大学のカリキュラムによって得られるため、進路の幅はさらに広がっている。

2) 就職・進学への不安

上記のようなさまざまな進路選択肢があるなかで、学生は自分の進む道を決めていかなければならない。実習を体験しているとはいえ、社会という新しい環境に入っていくときには、当然不安も生じてくる。そのなかでも特に多くの人が感じていた不安や悩みが表1の4項目であった。

キャリアアップに関しては、4年制看護大学の学生という特徴が出ているように思う。多くの学生が“認定・専門看護師の資格をとりたい”と考えており、それに伴っていつ進学したらよいか、仕事を続けながら資格を取るかといった不安も感じている。

3) 職場を選ぶ時のポイント

表1のような悩みや不安をもっている学生が職場を決定しようとするときに、何をポイントとしているのだら

うか。

病院選択のポイントのなかで特に重要視されている項目は「自分の望む看護ができる病院」ということである(表2)。これは一番大切な部分ともいえる。学生はこれまでの学習のなかで自分なりに看護観(表3)を培い、各々のめざす、患者に提供したい看護というものを漠然とながらももっている。その自分の理想の看護を実現できる病院かどうかというのが、学生が職場を選ぶうえで最も大切な部分なのである。病院にはそれぞれ看護部の理念が存在しており、その理念に自分の看護観を照らし合わせて賛同できるところの多い病院を選んでいる。

また、それにあわせてケアを提供する環境も重要である。患者にとってよりよいケアを提供するために、病棟

表1 就職・進学への不安

看護に対する不安	「自分が看護師として働けるか」 「自分の希望している仕事ができるか、 希望の科にいけるか」
進路決定に直接関係する悩み	「どこの病院にしたら働きやすいか」 「就職試験や入学試験に合格できるか」
生活に関する不安	「結婚したときに両立して仕事ができるか」 「仕事が忙しいと自分の時間がもてるのか」 「夜勤をして体力がもつか」 「貯金ができるのか」
キャリアアップに対する悩み	「病院の新人教育はしっかりしているか」 「専門看護師・認定看護師の資格を取得したり、大学院に進学するのはいつ頃にしたらよいか」

表2 病院選択のポイント

1. 自分の望む看護ができるか
2. 新人教育が充実しているか
3. 家庭生活と両立できる勤務体制であるか
4. スキルアップのためのサポートは充実しているか
5. 職場環境がよいか

1) 聖路加看護大学

表3 学生の看護観

- ・患者の行動と心理の関係を理解し、身体的にだけでなく、精神的・社会的な側面からも包括的な看護を提供する
- ・自分の考えをもちながらも、患者の考えや意思を尊重できるような看護を提供する
- ・患者やスタッフとのコミュニケーションを大切にする
- ・患者のできる限り望む生活を送ってもらうのに、必要なことは何なのか考えて、最良のケアを提供する
- ・医療スタッフ、家族とともに患者を多方面からケアし、自分の家族を入院させたいと思える看護を提供する

の環境や物品管理の行き届いた病院を選択する傾向がある。

そして、自分の看護観、患者に提供したい看護を実現するために、新人教育の内容や配属先も大きなウエイトを占めている。“最初のうちに確固とした技術を身につけたい”と思う学生の多くは、新人教育が充実しているかどうかで病院を選択している。

ほかにも、就職先を決めるにあたっての病院リサーチ時に、“希望の配属先で働けるか否か”ということを経験者は重要視している。なぜなら、それぞれ興味分野や、やりたいことをもつ学生にとっては希望の部署に配属されるかどうか、自らの今後の進路を大きく左右するからである。

最後に人間関係を含めた職場環境のよさも大切にしている。新しい環境に入り自分の行動に責任が生じてくる職場に適応するときには、必然的に大きなストレスを感じる。したがって、そのストレスを和らげてくれるような頼れる先輩方がいるかどうか、学生は職場訪問のときに自然とチェックしている。

その他の選択基準としては、電子カルテ化しているか否か、病院の新しさ、寮の有無・きれいさ、給与、休暇、福利厚生などがあげられる。

3. 学生の将来設計

今回の発表を機に、数名の学生に将来どのような進路をたどりたのか聞いてみたところ、それぞれの学生が十数年先までしっかりとビジョンをもっていることがわかった。たとえば、卒業してから4年くらい働いた後に留学したいという学生や、5年ほど働いた後にCNSの資格を取得するために大学院に進学したいという学生など、思いはさまざまだがそれぞれにしっかりと目

標をもっていることがわかった。私は将来国際保健計画の仕事に携わりたいと考えている。昔から国際協力の仕事がしたいという思いをもっていたが、自信のなさその他の分野にも興味があったことから諦めかけていた。そのようなときに、大学の先生方に海外の看護を観るチャンスと将来への助言を与えていただき、今でははっきりと国際協力の仕事に進もうと考えている。

4. おわりに

進路決定を間近にした学生は、本当に多くのことに悩み、迷いながら自分の進む道を決定している。今はほとんどの学生の進路が決定し、国家試験の合格を残すのみとなった。その胸中は、4月からの新しい環境と看護師として働き出すことへの期待と不安でいっぱいになっている。それぞれさまざまな思いを心に秘めているが、みな「看護師として患者に最良のケアを提供したい」という信念は同じである。

うまくいくことばかりではないと思うが、少しずつ看護師としての経験値を上げて、いつか患者の満足いくようなケアを提供していければいいと思う。

多くの学生が進路を決定するときに何かの壁に突き当たる。そのときに多くのアドバイスを先生方や諸先輩方にしていただいた。今後も私たちは多くの壁にぶつかり、悩むことも多くあると思う。そのようなときに、私たちの一歩を背中から押してくれる先生方や先輩方のような存在は、先のことが読めないでいる私たちにとってとても頼れる大きな存在なのである。

今、看護師としてのスタートラインに立った私たちをどうか温かく受け入れ、見守ってくださいますよう宜しくお願い致します。